

R4 SSH 授業開発 ICE ルーブリック表 教科別作成例

国語：漢詩〈古体詩〉「桃夭」「飲酒其五」

I フェーズ	C フェーズ	E フェーズ
漢詩のテーマや内容を読み取り、理解することができたか。	漢詩のテーマや内容に即した、他人に伝わりやすい鑑賞文をつくることができたか。	左記を理解・実践した上で、自らの経験にも沿った所感を綴ったり共有したりできたか。

数学：授業の振り返り

I フェーズ	C フェーズ	E フェーズ
教科書で一度学んだ知識を思い出し、根拠や理由をふまえて納得できる。	解き終わった後に同じページにある複数の問題を比べ、共通の解法があること、または異なる解法が必要なことを理解できる。	初見の問題に対して①状況把握（自分の言葉や図・言い換え）と②方針決めを行うことができる。

英語：The Story of the Teddy bear

I フェーズ	C フェーズ	E フェーズ
英作文の設問タイプ（今回は自身の体験を踏まえる「エピソード」型）とその書き方を理解している。	英作文の設問タイプ（今回は自身の体験を踏まえる「エピソード」型）とその書き方を理解し、自分の体験と関連付けた上で、考えを表現することができる。	教科書やその他配布資料の内容（Margarete Steiffの人生）を理解し、自分のこれまでの人生についてよく考えた上で、考えを論理的に表現することができる。

物理：電流が磁場から力を受けるなら（関連付ける力）

I フェーズ	C フェーズ	E フェーズ
「電流の向き、磁場の向き、電流が受ける力の向き」の一部を作図することができる。	「電流の向き、磁場の向き、電流が受ける力の向き」を作図し、これまで学習した要素を関連付けて運動の理論を解釈することができる。	「電流の向き、磁場の向き、電流が受ける力の向き」を作図し、これまで学習した要素を関連付けて運動の理論を解釈することができる。また、図などを交えて端的に表現することができる。

化学基礎：炭酸カルシウムと希塩酸の反応

I フェーズ	C フェーズ	E フェーズ
実験結果に基づき計算処理を行うことができた。	実験を通して、反応式と量的関係の理解を深めることができた。	C フェーズに加え、実験の改善策や代替案を提案できた。

R4 SSH 授業開発 ICE ルーブリック表 教科別作成例

生物：PCR 法と漸化式

I フェーズ	C フェーズ	E フェーズ
PCR 法と数列の知識をそれぞれ理解している。	PCR と数列で学習した知識を関連付けることができる。	PCR と数列で学習した知識を関連付け、他の学問や社会にも関連付け、新たな発見によって再構成化することができる。

日本史：鎌倉幕府の成立

I フェーズ	C フェーズ	E フェーズ
鎌倉幕府の成立に関する歴史的事項を理解している。	鎌倉幕府の成立について、身に付けた知識を活用し、知識を関連させながら、自分の文章で表現することができる。	鎌倉幕府の成立について、自分なりの歴史観をもって評価することができる。

地理：世界の気候 河川流量 ・湖

I フェーズ	C フェーズ	E フェーズ
湖の形や湖周辺の火山分布、断層分布を判別できた。	湖の形や湖周辺の火山・断層分布をもとに湖が形成された理由を考えたことができた。	湖の形成理由を考えることができ、その理由をもとに日本の様々な湖を種類別に分類できた。

保健体育：サッカー

I フェーズ	C フェーズ	E フェーズ
対面パス（15m 以上）でボールを蹴ることができる。	ゴールを置いた場面で、コースを狙って打つことができる	10 対 10 の試合の中で、状況に応じてクリアを味方選手に繋いだり、GK の位置を見ながらシュートを打つことができる。

*ICE モデルは、カナダで開発された学習、評価法であり、「I」は ideas（考え）、「C」は connections（つながり）、「E」は extensions（応用）を示している。「I」段階は「定義する・説明する」などの動詞で表される浅い学びの段階で、C フェーズは「比較する・推論する」などの動詞で表される比較的深い学びの段階、そして E フェーズは全く違う環境で学んだことを適用し、「提案する・創造する」などの動詞で表される段階を表す。これを生徒に提示することにより、最後の開発的な段階である E フェーズに到達するにはどのようなことができるようになれば良いのかが分かりやすく、指導と評価を一体化することができ、開発的な人材の育成を効率的に行うことができる。